本の紹介

是永淳著「新版・絵でわかるプレートテクトニクス　地球進化の謎に挑む」
講談社，208p，2026 年 5 月 20 日発行
2400 円（税別），ISBN978-4-06-543644-8

「なぜ」がわかると面白い．面白いから，もっと知りたくなる．知ると，地学を，理科をもっと好きになる．だから“なぜそうなるのか”を教えたい．そのためには，私自身がよく理解しておかなくてはならない．

しかしながら実を言うと，理解が不確かだと感じることや最新の学説・研究の情報に追いついていないと感じることがあり，時々不安になる．一度にすべては無理だが，少しずつ補強していきたいと常々思っている．本書はそのような不安の一部を埋めてくれた．

本書は，プレートテクトニクスを入り口に，地球惑星科学に関する多様な知見が，かみ砕かれた表現でわかりやすく展開されている．非常に読み進めやすく，カラーで示された模式図，地図，グラフなどの存在も内容の理解を助けてくれて，印象的である．

本書を構成する８つの章のうち，最初の２章は，
・プレートと地球の構造について
・大陸移動説，プレートテクトニクスの発見へ
という，高等学校程度の地学で学習するような内容が主であり，数多く出版されているプレートテクトニクスの入門的な一般書とそれほど相違ない．

しかし，第 3 章からは，プレートテクトニクスという現象の解明へと一歩踏み込んでいく．現在のプレートテクトニクス，過去のプレートテクトニクス，そして，地球以外の惑星のプレートテクトニクスに迫る．さらに，大気と海洋がプレートテクトニクスの要素の一つであること，プレートテクトニクスが生命の誕生と進化に必須の仕組みであることが示される．また，著者は，ところどころで読者に問いを投げかける．その例をいくつか挙げると，
・そもそもなぜプレートは動くのでしょうか？
・マントル対流がまったくない場合はどうなるでしょうか？
・すべての水が地表からなくなってしまうと，何が起こるでしょうか？
・なぜ地球の大気圧が 1 気圧なのか？
・大陸地殻の厚さはいったい何によって決まっているのでしょうか？
などである．そのような問いに対する解説を示しつつ，それらがプレートテクトニクスとどう関係しているのかということを論じていく．

読み進めていくうちに，プレートテクトニクスを固体地球表層の現象と捉えていた思考が，いつのまにか，大気，海洋，そして，太陽系の宇宙へと広がっていた．これぞ科学の醍醐味．自然科学の世界が網の目のようにつながっていく様相には，高揚感あるいは爽快感すら覚える．本書は，十分それを感じさせてくれる．

「地球科学はプレートテクトニクスの発見によって，ようやく現代科学の仲間入りを果たしました．本当に面白くなるのはこれからだと思います」という著者の弁がある．ウェゲナーが『大陸と海洋の起源』を発表したのが 1915 年，大陸移動説がプレートテクトニクスとして復活したのが 1960 年，そして今，21 世紀中盤へ差しかかろうとしているが，まだプレートテクトニクスは「肝心なことは何ひとつ解明されていない」．

著者は，21 世紀の地球科学への期待を込めて「自然を探求するにあたり，地球科学ほど魅力的な研究分野はない」「重要な鍵は地球システムの要素間の相互作用に潜んでいる，そのような鍵を探り当てるには，まず何かひとつの分野をしっかり身につけてから，もうひとつほかの分野について少しでもいいから学んでみることが肝要です」と綴っている．地球科学に興味のある者をどれだけ勇気付ける言葉だろうか．進路を決めようとしている世代にも読んでもらいたい．

なお，本書は同タイトルで 2014 年に旧版が出版されている．今回の「新版」は，その後における地球科学の進歩が加えられ，新たな加筆も多く見られる．旧版をお持ちの方も是非ご再読を．

（学校法人河合塾　真子千里）

2026.11.3 **受付**
2026.11.17 **学会ニュースレーター公開**
2026.11.17 **学会ホームページ公開**